研修体験談

「地域医療研修を終えて」

関門医療センター卒後臨床研修
　初期研修医２年目　山﨑　孝太

掲載日：令和5年7月31日

自己紹介

山﨑孝太

- 出身：熊本県熊本市
- 出身大学：産業医科大学
- 研修病院：関門医療センター
- 趣味：写真、キャンプなど

関門医療センター概要

- **3次救急**医療機関　救急車受け入れ件数：3095件
- 1日平均外来患者数(令和3年度実績)：608.5名
- 病床数：400床（うちICU6床、救命救急センター24床）
- 医師数（令和4年4月1日現在）：常勤53名（研修医除く）

診療科	34診療科 内科（総合診療） 糖尿病・血液内科 脳神経内科 消化器内科 呼吸器内科 肝臓内科 循環器内科 腫瘍内科 女性内科（女性総合診療） 精神科 小児科 外科 形成外科 乳腺外科 呼吸器外科 消化器外科 内視鏡外科 心臓血管外科 整形外科 リウマチ科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科 リハビリテーション科 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査科 病理診断科 救急科（ER24） 歯科口腔外科 麻酔科

今回の研修の目的

- 生活習慣病をはじめとする慢性疾患の治療・管理について学ぶ。
- 訪問診療、訪問看護に同行し、高齢化とともに需要が高まっている在宅医療について学ぶ。
- 患者さんの生活を維持するためにどのように他職種間・施設間で連携するのかを知る。

外来見学

- 診療科が十分に揃っていないため、それぞれの医師は自分の専門のみならず、総合診療科としての側面が強い。

- 内服薬の調節が難しい。
  高齢者は食思不振や高温環境下などで脱水になりやすい。

⇒腎前性腎不全（腎機能悪化）になりすい

⇒内服薬が過剰に効いてしまう

研修医新患外来

- 救急の時とは違い、症状がはっきりしない場合がしばしば見られる
- 医療機関によって可能な検査が違う

⇒問診・身体診察が重要

訪問診療、訪問看護、訪問リハ同行

- 患者さんや家族の生活環境や状況を把握することが大切

  ⇒転倒や寝たきりの予防、肺炎や褥瘡などの予防、栄養状態の管理など、予測されるリスクを回避し、入院が必要な状態を未然に防ぐことも重要な役割

- 患者さんのライフスタイルや性格に寄り添った医療

- 患者だけでなくその家族もサービスの対象

  ⇒家族や介護者の身体的・精神的負担を減らす

周防大島町の地域医療の課題

- 医療従事者を含む働き手の確保困難
- 高齢化率の上昇、高齢者の1人暮らし、2人暮らしの増加
  ⇒医療従事者の負担増加。家族の介護疲れ。

・山間部に住んでいる方も多く、自家車が運転しにくい、公共交通機関を利用するまでに長い距離を歩かなければならない
⇒医療アクセスが悪い

地域医療のポイント

- 現在の症状や院内にあるときの様子だけでなく、自宅での状況や性格も加味した医療を提供し、病気を未然に防ぎ、QOLを改善・維持させる
- ケアマネージャーや介護施設など他職種とも情報共有や連携をとり、包括的なケアでその人に適した環境作りをしていく
- 「その人がその人らしく生きていく支援」を

最後に

- 地域医療の現状を実際にこの肌で感じることができ、自分なりに医師としての使命を考え直す良い機会になりました。地域医療の問題は山積みですが、患者さんの人生を彩りあるものにするためにも、今ある病気の治療だけでなく、その方のこれからを見据えた医療を提供できるように精進します。

- 一ヶ月間、ご指導下さりありがとうございました。

下関と周防大島

下関市		周防大島町
248193人	総人口	14074人
90212人	65歳以上	7779人
36.3%	高齢化率	55.2%
48441人	75歳以上	4856人
128762世帯	世帯数	7198世帯
17816世帯	高齢者夫婦世帯数	1929世帯
19483世帯	高齢者単独世帯	2277世帯
29%	高齢者のみの世帯の割合	58%